

第7回全日本教育系学生バドミントン選手権大会について

競技役員長 飯村 梨衣子 (東京女子体育大学)

全日本教育系バドミントン選手権大会が、無事に開催されたことを嬉しく思います。また、大会に参加されてくださった選手の方々、大会運営に協力してくださった役員の方々に深く御礼申し上げます。初めて大会運営に携わり、いろいろな経験をすることができました。

私自身、運営する中での試合でしたがしっかりと戦うことができました。今年一年が学生生活でのバドミントン最後の大会となるので、団体、個人と今まで以上の結果ができるよう精進していきます。

期日：平成29年12月24日（日）～25日（月） 会場：葛飾区総合スポーツセンター体育館

男子シングルス

優勝 牧野 桂大 (筑波大学)
準優勝 西野 勝志 (筑波大学)
3 位 福田 冬弥 (帝京大学)
〃 下川 大樹 (筑波大学)

男子ダブルス

優勝 原 峻章・新井風海 (帝京大学)
準優勝 山下智史・新保龍馬 (千葉大学)
3 位 遠藤良将・木村 翔 (東京情報大学)
〃 菊川 翼・太田悠斗 (千葉商科大学)

女子シングルス

優勝 日野 嘉与 (作新学院大学)
準優勝 飯村梨衣子 (東京女子体育大学)
3 位 河野 蘭奈 (東京女子体育大学)
〃 柳瀬 玲泉 (東京女子体育大学)

女子ダブルス

優勝 香山未帆・安田美空 (筑波大学)
準優勝 柿本由乃・村谷唯葉 (東京女子体育大学)
3 位 川崎幸優・甲斐夏美 (東京情報大学)
〃 山中芹里・大関令奈 (筑波大学)



【役員・幹事校】

第7回全日本教育系学生バドミントン選手権大会：優勝者のことば

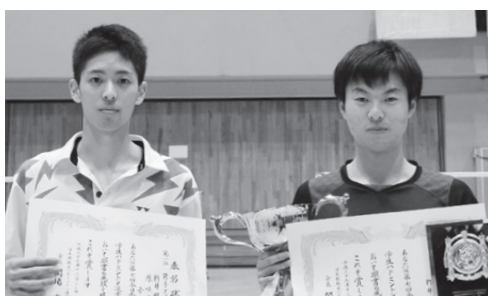
男子シングルス 牧野 桂大（筑波大学）



1日に5試合とハードな日程でしたが、最後まで戦い抜くことが出来て良かったです。ファイナルの試合もあり、精神的にも身体的にもギリギリでしたが、我慢してラリーをし続けられたことがこの結果につながったと思います。去年は、ダブルスで優勝していたので、今年はシングルスで優勝したいと思っていたのでホッとしています。

この結果を自信にし、インカレでも結果を残せるように努力したいと思います。

男子ダブルス 原 峻章・新井 風海（帝京大学）



女子シングルス 日野 嘉与（作新学院大学）



苦しい試合もありましたが、最後は我慢しきれたので勝ちにつなげることが出来ました。この結果を嬉しく思います。

しかし、この結果に満足せず、勝ち進む中にも課題を持ってこれからも頑張りたいと思います。

女子ダブルス 香山 未帆・安田 美空（筑波大学）



この大会には、1ゲームも取られずに優勝という目標を持って臨みました。この目標は達成できなかったものの、安田さんと組んで、はじめての優勝で着実に実力がついていくことに嬉しく思いました。特に良かった点は、パフォーマンスが安定したことです。今までは、調子が良い時と悪い時にパフォーマンスの差が大きかったですが、今回は決勝戦までとても安定して試合ができました。一方で、新たな課題も見つ

かったので、春季リーグまでに、しっかり改善して臨もうと思っています。春季リーグでは、優勝を支える柱になれるよう、精一杯頑張ります。（香山未帆）

このペアで優勝するのは今大会が初めてだったので、とても嬉しく思っています。2017年を締めくくる大会でもあったので、結果を出せたことは2018年を迎えるに当たって自信になりました。しかし、2017年は達成できなかった目標や課題がたくさんあったので来年こそはひとつでも多くの結果を残せるように努力したいと思います。（安田美空）